

1. 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成29年12月25日

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4670103417
法人名	社会医療法人 天陽会
事業所名	グループホームさくらじま
所在地	鹿児島市野尻町49番地1 (電話) 099-245-0818
自己評価作成日	平成29年11月20日

※事業所の基本情報は、WAMNETのホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.wam.go.jp/
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人NPOさつま
所在地	鹿児島県鹿児島市下荒田2丁目48番13号
訪問調査日	平成29年12月14日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

施設内は、ゆったりとした開放感のある作りで車椅子でも自由に行き来できる広さがある。また、桜島病院と隣接しており、定期的な受診のほか、リハビリに通ったり、看護師による健康チェック、夜間や緊急時の往診など医療機関との連携が充実していることで、安心して過ごせる体制が整っている。季節ごとの様々な行事のほか年3回の家族会を実施しており、今年度は、体育館を貸し切った運動会や昼食会を兼ねたカラオケ大会などを実施し、利用者も家族も共に楽しい一時を共有する事が出来た。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

(事業所の優れている点)

- 当ホームは、隣接した医療機関での定期受診、看護師や薬剤師、理学療法士などの専門職との連携、緊急時などの対応、母体の医療機関との連携体制が構築されており、週1回訪問看護師による健康観察、日々は職員による健康管理がなされ利用者や家族の満足度も高い。
- 人事考課システムがあり、職員一人ひとりが自己目標に向けて取り組むとともに、内・外部の研修会に参加しスキルアップを図っている。勉強委員会があり、毎月ミーティング時に勉強会を実施するなど計画的に職員研修をしている。管理者は、年2回職員と個人面談をおこない、意見や提案を聞いたり、ストレスチェックを実施、また、職員が働きやすい職場環境に向けて環境を整備するなどしている。職員のキャリアアップ、育成に力を入れ毎月のミーティングは職員の意見交換の場になっている。管理者と職員の関係性が良好で離職率も低い。
- 地域や家族からの野菜などの差し入れも多く、各ユニットごとに職員が献立を作成し、家庭料理を提供している。年3回家族会があり、今年12月はカラオケを楽しみながら家族同伴で昼食会をしている。また、弁当持参でお花見に行ったり、秋の1日遠足では足湯や外食を楽しむなど四季折々の季節や行事を楽しみながら食事ができるよう支援している。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	リビングに理念を大きく掲げ、毎月の広報誌にも掲載し、日常的な意識付けを行っている。	理念は、毎月の広報誌に掲載し家族、地域との交流が途切れることがないよう意識づけをおこない、ミーティングで理念に触れる機会を設けている。管理者は、職員間で温度差がないようより一層理念を意識したケアの実現に向けて検討している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	ホームでの交流会の開催や地域の運動会や文化祭に参加したりしている。	民生委員の熱心な関りが日常的にあり、中学生の職場体験、地区婦人部会の方の見学会の受入れや養護施設の子ども達との交流活動、地域の文化祭への参加など地域との関りを模索しながら交流活動に取り組んでいる。また、災害時は、シェルター機能を発揮する役割を担っている。	
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている	体験学習の子供たちの受け入れや隣接する病院での健康祭りに参加し、練習した踊りを披露したりしている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	事業所での出来事など現状をありのままに報告し様々な意見を取り入れながらサービスの向上や改善に努めている。	会議開催については、年度初めにメンバーに会議日程表を配布、会議に参加しやすいよう配慮している。家族には、輪番制で参加を呼びかけているが、管理者はより一層家族の参加が見込めるよう取り組み、今後はそれぞれのユニット代表の家族の参加を検討したいと考えている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議に参加していただき現状報告も行っている。また鹿児島市からの相談員受入れ、保護課との情報交換など相互の協力関係を築いている。	市担当者や福祉事務所担当職員との協力関係があり、日常的に相談や助言をいただくなど良好な関係を築いている。今月初旬に桜島の爆発を想定した防災訓練に参加、行政との連絡体制の確認や防災マニュアル作成、避難リストなど提出し相互に協力関係を築くよう取り組んでいる。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	勉強会を開催し介護の現状を振り返りながら身体拘束の無いケアに努めている。	毎年、内部研修にてミーティング前に研修会を実施し、身体拘束の弊害について知識や技術を研鑽している。また、最近徘徊感知機器を活用する方がおられるが、行動を抑制することなく自由に暮らしていただくことを目的に定期的にカンファレンスなどで話し合いながら代替案などについても検討を重ねていく予定である。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待についての勉強会を開催したり、利用者の身体状況など担当者からの報告を行い職員相互にチェックをしたり、話し合う機会を設けている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度についての勉強会に参加したり、実際に後見人制度を利用している現状がある。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用開始時は、契約書や重要事項説明書をもとに十分な説明を行い理解・同意をいただいている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族代表に運営会議に出席していただいたり、家族会の中でも意見を伺う機会を設けたりしており、要望については、検討したうえで改善できる部分は改善し、希望に添える努力をしている。	家族には、面会時に職員から必ず声かけをするよう努めており、意見や要望などが出しやすいよう雰囲気作りに心掛け、年3回の家族会にて、利用者ごとの担当職員を中心に意見交換している。職員は、家族面談後、相談の内容などを記録し職員全員で確認して検討するなど情報の共有を図り、サービスの質の向上に努めている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回のミーティング時や人事考課時の個人面接など職員からの意見を聞く機会を設けている。	管理者は、毎月のミーティング時に職員から意見、提案などを聞く機会を設けているが、人事考課システムもあり、年2回個人面談も実施している。また、ストレスチェックを実施し、職場環境の改善策や業務の見直しなど話し合い職員全員で取り組んでいる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職場の環境については、できるだけ要望を聞き入れてもらっている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>勉強委員会が中心となり、月1回のミーティング時の勉強会や外部での職員研修を実施している。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>以前は、他施設訪問なども計画していたが、研修等以外では同業者間の交流も図れない現状がある。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>利用者が穏やかな気持ちで話せるような場所の設定や雰囲気づくりに努め、レクリエーションなどへの参加で徐々に馴染みの関係が築けるように努めている。</p>		
16		<p>○初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている</p>	<p>電話や面会時の情報交換などで不安や要望などについて聞きより良い介護サービスにつなげられるよう努力している。</p>		
17		<p>○初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>利用開始において利用者や家族の要望に耳を傾け、必要としているサービスの見極めや、本人に安心していただけるための関係づくりに努めている。</p>		
18		<p>○本人と共に過ごし支え合う関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている</p>	<p>必要時の家族への電話連絡、月1回の広報誌の発行など本人の日常を情報発信し、家族とのつながりを深めるための家族会も年3回開催している。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人や家族の希望に応じ、居室で携帯電話利用ができるよう支援したり、体調不良時においても、ご家族と細かく連絡を取るよう心がけている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会時には、居室でお茶を飲みながらゆっくり過ごしていただくよう工夫し、利用者が希望される時には、電話を入れたり外出支援を行ったりしている。	隣接した病院の外来リハビリに來られた地域の方が訪ねて來られたり、外来受診時に交流する機会がある。また、年賀状を書いたり、電話の取次ぎを依頼され支援している。時にはドライブがてら職員と故郷訪問される方もおられるなど関係継続に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	時には、リビングでの席替えを行ったり、行事の際に会話が弾むよう利用者同士の配置に気を配ったりしている。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用〈契約〉が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	家族へ退院後の状況について電話で尋ねたり、入院で退去の利用者にはお見舞いに行ったりしている。退所後も声掛けで家族会に参加してくださる方も。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の希望で、居室内にテレビやソファを置いたり、本人希望の美容院へお連れしたりしている。	ミーティング時に担当職員から利用者の思いを聞き取り、職員全員で話し合い本人の思いを共有するよう努め、本人本位にケアするよう検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者ごとに担当者を設け家族との密接な関係が築けるようにしており、職員は電話や面会等を利用しこれまでの生活歴や経過等の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の食事量やバイタルチェック、1日の過ごし方を記録し、本人の心身の状況がいつでも把握できるようにしている。また、ミーティング時に各担当者が利用者の現状説明や要望などを報告し情報の共有ができるように努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月2回のケア検討会やサービス担当者会などの話し合いを通じ利用者へよりよいケアサービスの提供が実施できるよう努めている。	担当者が中心になりアセスメントした結果やモニタリング結果を踏まえ、ケアカンファレンスを実施したり、ミーティングで話し合っている。担当者会議では、家族に解りやすく説明し目標やケアの方向性について情報共有して、本人主体のケア実践に向けて取り組み本人らしい生活の実現に向けた介護計画を作成するよう努めている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の介護記録をもとに各担当者が1か月ごとに支援経過をまとめており、職員間で現状を共有しながら、見直しや改善に努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	週1回の健康チェックを行っている看護師や隣接する病院の薬剤師や栄養士、理学療法士など多方面と意見交換を行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の行政・包括支援センター居宅支援事業所などと日常的に情報交換を行っている。地域の皆さんのボランティアの受け入れも行っている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	隣接する病院での定期受診のほか、緊急時などはご家族と協力し主治医、専門医などその都度適切な受信が行えるよう支援している。	母体の医療機関とは、今年9月にインフルエンザ感染が蔓延の事態に直面した時など迅速に対応し、行政や家族へのインフォームドコンセントをおこない終息に向け再発防止策などに取り組むなど日々の連携体制が構築されている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>契約の看護師による週1回の健康チェックのほかに外来看護師による点滴や処置など相互に情報を共有しながらの医療的な連携が整っており、いつでも適切なアドバイスをもらうことができる。</p>		
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている</p>	<p>入退院時には互いに情報提供書をやり取りし情報交換に努めている。</p>		
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>利用開始時に見取りに関する事前確認書を記入していただき、必要時にはその都度、家族や医師との話し合いも継続している。</p>	<p>重度化対応・終末期ケア対応に関する指針があり、入所時に「看取りの事前同意書」にて意志確認をしているが、重度化に対する指針は、具体性に欠けているため管理者は、今後、重度化した場合の指針の内容について具体例を挙げて利用者、家族に説明し同意が得られるよう文書化を検討している。</p>	
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>消防署員による応急手当の勉強会を開催するなどしているが、今後も継続した勉強会を実施していきたい。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>消防署参加の火災避難訓練も継続しているが今後は、自然災害に関する訓練も定期的の実施していきたい。</p>	<p>地域は、協定書を交わしている建設業者の協力体制はあるが、実際に訓練を見学してもらったり、避難手順を確認するには至っていない。火山噴火による被害や地震、津波などの災害の危険性も高く、地域の避難場所に指定されており職員は、緊急時の応急対策やAEDの使用方法を徹底するなど取り組み、法人の協力体制が構築されている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	面会や個人的な話がある時は、居室内で話したり、排泄の場合も大きな声を上げないように心がけている。	名前の呼び方や声の掛け方などは、尊厳を持って失礼のないよう配慮している。また、居室扉は本人の希望に沿い対応し、個人的な内容の話をする時は、居室ですよう心がけている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	着衣やお菓子なども本人が好きなのを選択できるよう対応を工夫している。また、テレビ番組などもスポーツ観戦や歌番組など自由に選択していただいている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	リハビリや入浴なども利用者の体調に合わせて臨機応変に対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	理容師に定期的に訪問してもらい散髪していただいたり、本人の希望の美容院へパーマに連れて行っている。更衣も本人の好みに合わせて手伝っている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	彩りよく食材の大きさや硬さなど個々のレベルに応じた工夫をし提供している。また、台拭きやエプロンの着用など本人のできる範囲でお願いしている。	ユニットごとにメニューが異なり、担当職員が献立を作成している。地域や家族からの差し入れも多く、美味しく召し上がってもらいたい気持ちが料理の味付けに活かしている。外食は、近くのレストランに家族同伴で行ったり、個別にて道の駅、ファミリーレストランなどに出かけている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の好き嫌いや咀嚼力に応じ、工夫を凝らしながら食事を提供している。水分についても甘味料を使ったり、時には飲み物を変えたりしながら、摂取量を増やせるよう努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	歯科検診や訪問歯科診療を受け入れている。また、スポンジブラシを使ったり個々の状態に合わせた口腔ケアを実践している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	個々に排泄の記録を行い、定期的なトイレ誘導を実施している	排泄の自立支援に向け集団体操や立ち座り動作訓練を実施するなどしている。布下着の方がおられたり、トイレで排泄される方がほとんどであるが、排泄機能が低下しておられる方もあるため排泄リズムを把握したり、定時で誘導するなどおむつへの排泄が減らせるよう取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日の排泄の記録をもとに排便に関する項目をチェックしながら、必要に応じて水分接種や緩下剤の調整、薬用茶の飲用などそれぞれの対応を心掛けている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	本人の体調に合わせて週3回以上は入浴できるようにしている。また、浴槽に浸かることを楽しみにしている利用者にも入浴を十分に楽しんでもらっている。	車いす移動が増えるなど重度化が進んでいるが、職員は、利用者の身体機能を把握し2人介助するなど個々の入浴方法を検討し、浴槽に浸かりゆっくりと入浴が楽しめるよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	寝具の清潔を保ち定期的に天日干ししている。また、日中はそれぞれ希望の場所でゆっくり過ごしてもらい、夜間は、室温調整にも配慮し安眠を促している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋を個々の介護日誌に添付し注意事項や副作用等についても理解できるようにしており、服薬の確認にも努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の能力に応じ、洗濯物たたみや台ふきなど手伝ってもらっている。また、午後は、コーヒータイムを楽しんでもらったりしている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	気分転換にドライブに出かけたり、屋外でのレクリエーションや行事を設けたりと居室内ばかりに閉じこもることのないよう努めている。	天候の良い日は、玄関前の広々としたスペースで日光浴やお茶タイムを楽しむなどしている。企画委員会が中心となり、計画的に外出支援に力を入れており、家族も積極的に協力している。また、隣接した病院の外来リハビリに行かれる方や砂防センターに散歩に行かれる方、地域の文化祭、運動会への参加もあり、本人の希望を把握し外出が楽しめるよう支援している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>希望時には、預り金の中から自由に使えるように支援している。</p>		
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している</p>	<p>利用者の希望に応じ電話したり、携帯電話で気軽に居室で会話できるように支援している。</p>		
52	19	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を取り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>喚起や室温調整をしたり、月々で展示物を変えたり、好きな音楽をかけたりと共有のリビングでも利用者が気持ちよく過ごせるよう配慮している。</p>	<p>ユニットごとに等身大のクリスマスツリーが飾られ、壁には季節を感じさせる利用者の手作りの作品や外出先での写真などが掲示されている。畳スペースがあり、午睡されたり、夜間眠れない時など仮眠を取ったりするなど利用されている。部屋には生花が活けてあり、広々としたリビング、共用空間は掃除が行き届き清潔感あふれる明るい居住空間である。</p>	
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>広々としたリビングや和室があり、それぞれの場所でテレビを見たりソファで休んだり音楽を聞いたり開放的な空間で自由に過ごせている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族の写真や花を飾ったり、本人の希望により、テレビや応接セット、私物の箆笥などを置いたりして本人が落ち着いて暮らせる居室となっている。	居室入口のクリスマスリースをくぐると本人の使い慣れた家具や寝具、写真、人形などが置いてあり、利用者の中には入所前の自宅を再現したかのような雰囲気の中生活される方もおられる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内は段差がなく、リビングや廊下には手すりを取り付けられており、安全に移動できる。また、居室やトイレ・浴室の出入り口は、車椅子でも安全に出入りできるだけの十分な広さがある。		

V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1 ほぼ全ての利用者の
			2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)		1 毎日ある
		○	2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない

61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らしている。 (参考項目：28)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1 ほぼ全ての家族と
			2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ毎日のように
		○	2 数日に1回程度ある
			3 たまに
			4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		1 大いに増えている
		○	2 少しずつ増えている
			3 あまり増えていない
			4 全くいない

66	職員は，生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)		1 ほぼ全ての職員が
		○	2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て，利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て，利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1 ほぼ全ての家族等が
			2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない